



八王子盲学校だより



令和7年9月発行 第5号
東京都立八王子盲学校長 田島 由紀子

夏休みの思い出

校長 田島 由紀子

長かった夏休みが終わり、9月から2学期が始まりました。今年の夏も猛暑が続きましたが、御家庭では、夏ならではの体験や思い出がたくさん生まれたことと思います。

私自身の夏休みの思い出の中で、今も心に残っているのは、小学生の頃、ひとりで両親の実家がある九州まで旅をしたことです。当時は新幹線で片道約7時間。名古屋や大阪や広島など、途中の駅でさまざまな人が乗ってきて、ポツンと一人座っているちっちゃな小学生の女の子に、気を遣ってくださったのでしょうか、隣に座った方にお菓子をいただいたり、自然と話が始まったりしたこともありました。

あるときは、シスター服を着た女性が学校の話聞いてくださり、悩みにも優しく応えてくれました。また別のときには、旅慣れたサラリーマンの方が、博多駅での乗り換えについて、改札を出たあとの進み方やホームの場所、乗るべき車両まで丁寧に教えてくださいました。実際に博多駅でその通りに動けたときの安堵感や達成感と、改札口で駅員さんが「気を付けてね」と声をかけてくださった温かさは、今でも忘れられません。

こうした出会いは、学校という日常の中ではなかなか得られない、年齢も立場も異なる大人とのやりとりを通して、社会の広がりや人のあたたかさを肌で感じる貴重な経験でした。子どもながらも、自分で考えて行動することの大切さを学んだ時間でもありました。

あのときの経験を思い返すたびに、旅の本当の意味は、移動することだけではなく、心が動く瞬間にあるのだと感じます。新しい本を読んだり、誰かと深く話したり、自分の気持ちを見つめ直したり—そうした日々の中の小さな変化や気付きも、幼児・児童・生徒の皆さんにとっては大切な「学びの旅」です。

この夏に出会った新しい経験や発見が、2学期の学びやふれあいの中で、小さな成長の芽として育っていくことを願っています。

2学期は、1年の中でも最も長く、学びを深めるのに最適な時期です。六光祭をはじめとする発表の場も多く、皆さん一人ひとりの努力が形となって表れる学期でもあります。私たち教職員も、皆さんの歩みに寄り添いながら、共に進んでまいります。

2学期も、どうぞよろしくお願いいたします。

教育課程について（教務主幹：伊藤洋介）

9月に入り、2学期が始まりました。暑い日が続きますが、体調を整えて元気よく過ごしましょう。

さて、みなさんは「教育課程」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。教育課程とは、「幼児・児童・生徒のみなさんが、学習の目的や目標を達成するために必要な教育計画」のことです。具体的には、時間割や年間行事の作成、教科書や教材の選定、学習評価の規準の作成などを行います。そして、一年を通して、学習の進度や時間割に無理はないか、行事の開催意義や時期は適切か、教科に合った教科書を使用しているかななどを検討しています。

私は教務主幹として校内を見て回るとき、こんなことを考えています。

「学校は、楽しい場所になっているかな。」

「授業は、面白いかな。」

「学習に興味関心をもって取り組めているかな。」



などを頭に浮かべながら、次年度の教育課程について考えています。みなさんは、八王子盲学校で何ができるようになりたいでしょうか。一人一人の目的や目標に応じて、みなさんの、「やる気を引き出す教育課程」を作れるよう努力していきます。

幼児・児童・生徒とともに、保護者・地域の皆様からも忌憚のない御意見をいただければ幸いです。教育課程に反映していきますので、引き続き、御支援賜りますようお願い申し上げます。

ICT活用の取組について（主幹教諭：栗本みゆき）

■小学部の児童と中学部の生徒は、国の「GIGAスクール構想」に基づき、児童・生徒一人につき1台の端末が貸し出されています。本校ではタブレット端末(iPad)やキーボードなどが貸し出されます。

■高等部普通科・保健医療科の生徒は、東京都の「スマートスクール構想」に基づき、負担上限額が設定された上で、学校指定の端末を購入することになっています。ただし、特別支援学校の場合は、購入に際して保護者負担が生じない形になっています。本校指定の端末は、iPad かノートパソコン(Surface Laptop Go)です。視力等を鑑みて、活用しやすい方を購入いただいています。

■活用の取組例：小学部では、学習アプリの利用やインターネット検索、PDF 版拡大図書、デジタル教科書での教科学習を、更に中学部以降は、Teams(チームズ)、One Drive(ワンドライブ)の活用、Word(ワード)や Excel(エクセル)等による文書作成、ファイルの管理などの学習を行っています。特に今年度は、「視覚障害のある児童・生徒に対するデジタル教科書の活用」に取り組んでいます。また、1学期には、小学部4年生が、昨年度に引き続き都立久我山青光学園の児童と国語や特別活動のオンライン授業を3回合同で行いました。「いつもと違った感想をもらえて嬉しい」と児童にも好評です。2学期には他学部でもオンライン授業が計画されています。

■点字ディスプレイ(ブレイルメモ)：ブレイルメモとは、携帯できる点字の電子メモ帳です。機器の上部に配列された6点の点字キーボードで入力が行えます。パソコンの「スクリーンリーダー」という「活字の音声読み上げ機能」を利用して情報を取り込み、点字として表示する点字携帯端末としても利用できます。点字だけでなく、テキストのデータ作成/編集や音声読み上げ機能、ボイスレコーダー機能、デジタイズ機能も付いています。スケジュールや授業中のノートテイク、読書など幅広く活用できます。現在の福祉制度では、点字ディスプレイの購入補助費の対象年齢が 18 歳以上となっているところが多く、在学中に補助を受けて自分の機器を購入することができないことがあるため、文部科学省の予算で各校に貸し出し用の点字ディスプレイが配備されました。本校では、点字生(点字盤とパーキンスの読み書きに習熟した者で申請を認められた者)を対象に、「ブレイルメモ」の貸し出しが可能となっています。

今後も、視覚障害教育の専門性を継承するとともに、デジタル機器の利活用による個別最適な学びや、オンライン等を活用した対話的・協働的な学びの実践を積み重ね、学びの質を高めてまいります。